ADVANCE 北海道医療大学広報誌
2017 MARCH
No.166

札幌開成中等教育学校特別講義「プレ先端科学特論」「先端科学特論」を実施［4ページに関連レポート］

北海道医療大学はどこに向かうのか？

北海道医療大学 学長　浅香 正博

学長に就任してから1年が経過いたしました。4年前に設置されたリハビリテーション科学部は、今年初めての卒業生を送り出すことになります。初めての国家試験を多くの卒業生がパスすることを心から願っています。

また、2015年12月、札幌あいの里に在宅医療の原点として創設された地域包括ケアセンターは、地域の方々の役に立つ訪問看護や居宅介護を提供することを出発点に順調な歩みを続けているところです。

社会医療法人カレスサッポロとの連携はさらに進み、昨年4月から、地域医療連携推進法人の設立に向けて打ち合わせを続けています。これが実現すると本学は学生の大きな研修先を確保できることになり、急性期医療から在宅医療に至るまで医療の全てを学生に経験してもらうことが可能になります。このことにより、より深く効果的な多職種連携教育を実現し、一層勉学に励んでいただけることを期待しています。

そして、「2018年問題」として認識されている、18歳人口の減少がいよいよ来年に迫ってきています。本学は医療系総合大学というアイデンティティーの明確さもあって、2018年問題に対する危機感が他大学より薄い印象があります。しかし、受験生の絶対数の不足は本学にとっても大きな問題であることは事実であるため、優秀な学生を確実に入学させるために何をなすべきかについて本学の教職員の皆さん一人一人が自分の問題として是非考えていただきたいです。私は、北海道医療大学を全国ブランドの大学に飛翔させることによって多くの地域から受験生を集め、この危機を乗り越えたいと考えています。

開学50周年を7年後に控え、「2020行動計画」後の新しい中長期計画の策定に取りかかろうと思っています。既に各学部からのご意見を拝聴しようとアンケートの準備を進めており、入学者の確保、教育の質の向上、学生の学習力の向上、国家試験対策、国際化および地域連携について各学部の考えを集約。それをベースにして本学の新たな中長期計画を検討していく予定です。アンケートの返答を学部長に任せきりにするのではなく、各学部の構成員の一人一人が知恵を出し合って、将来の北海道医療大学をどのような方向に向かわせるのがよいのかを考えて欲しいと思っています。今年は本学にとってきわめて重要な年になると思いますので皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。

CONTENTS

北海道医療大学はどこに向かうのか？ —— 1
新任教員・昇任教員紹介 —— 2
定年退職される先生からのメッセージ
札幌市立高等学校との連携事業 —— 4
「看護職・リハビリ職体験学習プログラム」実施
札幌開成中等教育学校特別講義
「プレ先端科学特論」「先端科学特論」を実施
札幌北高等学校インターンシップの実施
2017年度入試結果速報 —— 5
認定看護師研修センター修了式を実施
同窓会活動状況 —— 6
リハビリテーション科学部・井上恒志郎助教が明治安田厚生事業団「第33回若手研究者のための健康科学研究助成」を受賞 —— 8
薬学部・二瓶裕之教授、心理科学部・西牧可織助教が、私立大学情報教育協会の「ICT利用による教育改善研究発表会 平成28年度 奨励賞」を受賞
学友会の活動について
第9期 SCP（学生キャンパス副学長）が決定しました —— 9
私の学生時代 —— 10
OB訪問［臨床心理学科］ —— 11
TOPICS —— 12
EDITOR'S NOTE

新任教員・昇任教員紹介

新任教員

平成29年1月1日付

准教授
田中 真樹（たなか まき）

本学歯学部卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。札幌医科大学医学部内科学第四講座訪問研究員、米国John Wayne Cancer Institute研究員、株式会社レノメディクス研究員、札幌医科大学医学部感染制御・臨床検査医学講座助教等を経て、本学就任。歯学博士。

平成28年12月12日付

薬学部	助教（薬理学講座〈薬理学〉）	湯谷 美規子

平成29年3月1日付

歯学部	助教（口腔機能修復・再建育学系〈歯周歯内治療学〉）	山田　梓

Message 定年退職される先生からのメッセージ

薬学部 教授
小田　和明

「家、家にあらず、継ぐを以て家とす」

今年薬学部は40期生を社会に輩出し、5,300名以上の薬剤師が日本全国で活躍することになる。南は沖縄、北は北海道まで‥‥。私は本学開設当初から在籍し42年間、人生の2/3以上、ここで教員生活を送って来た。本学の設立当初を知る人間が私を含めこの1～2年でほぼ本学を去って行く。その辺りの思いを拙稿に綴り役目を果たす事としよう。

薬学部のみで発足した本学。学生は1年半余り道東の音別キャンパスでの教養教育を終えて、専門課程をここ当別で過ごすこととなる。学生も薬剤師国家試験を控えて不安いっぱいなのは勿論のこと、色々な大学から集まった教員もやる気は心に強く秘めてはいたものの、私立大学の薬学教育には不慣れ、手探りの船出だったように思う。各教員は自分が経験した教育がベストであると信じて、侃々諤々議論を戦わせ、ある方向性を見いだす。しかし、いつかそれでは立ち行かなくなる現実の厳しさと何回も直面する。国家試験の結果も低迷することがあった。そんな中、学生諸君と力を合わせて文字通り試行錯誤の連続ではあったが、現在も誇るべき「学生に寄り添った教育」が時間をかけて育まれてきた。手前味噌ではあろうが我々の先輩教員は、ベストに近い指導体系を作り上げてくれたと考えている。この黎明期が本学の第一世代だとすると、その方々の薫陶を受けた我々は第二世代ということになる。40年余を経て、今薬学部の教員の過半数は本学出身者となった。このような第三世代の方々には、時間をかけて育まれた本学の良い部分は継続し、新たな改革は躊躇無く成し遂げて頂きたいし、必ずそうなると信じている。

表題は、足利義満に寵愛され能楽を完成させた世阿弥の風姿花伝いわゆる「花伝書」の言葉である。家は今充実していれば家と呼ばれるに値するのではなく、そこで育まれた知恵、伝統を次の世代に引き継いで初めて本当の家となるという教えである。私もそろそろ次の世代に家を引き継ぐ時が来たということである。諸先生方、学生諸君の健闘を心から祈念している。

薬学部 教授
島村　佳一

今年の冬は通い慣れた車窓の風景がいとおしく、気のせいか当別の厳寒もさほど感じません。2000年7月に赴任して以来、石狩当別の北海道医療大学薬学部に16年余り勤務しました。東京・大阪での20年の研究職に続いて、故郷の北海道で教育研究職に長く従事できたことに感謝しております。この間、講義・試験、卒業研究や大学院生研究発表、地区別父母懇談会、九十九祭など楽しい大学行事の思い出をたくさんいただきました。

それまでの研究所では英語論文ばかり読み、赴任当初は日本語の教科書を読む時にぎこちなさを体験しましたので、日本語の試験問題文を読めないというスマホ世代の学生さんの気持ちも少しは分かります。自分の学生時代には講義配布資料は非常に少なく、授業中は黒板やスライドの文字や図を必死で写しました。借りた友人のノートも手書きで写しました。最近の動物実験の学習研究では、脳神経回路を高速度で活動させることにより、その経路だけに長期記憶が形成されることが分かっています。今の学生さんは何でもコピーや写メできて便利ですが、それをただ眺めても長期記憶できそうにありません。学習内容を文章や図にまとめたりすると、おそらく脳が高速度で活動し長期記憶が形成され、試験の成績も向上することと思います。

今から思い返すと、着任当初は講義以外の大学業務については知らないことばかりでした。先生方や事務の方へ質問やご相談で伺う時は緊張していたものですが、温かくご指導いただいたおかげで、あまり大きなトラブルも起こさずにこの日を迎えられました。多くの先生方や事務の方のお力添えをいただけたことに、この場をお借りして心から感謝申し上げます。2017年3月31日で退職いたします。最後になりましたが、北海道医療大学の更なるご発展と皆様のご活躍を祈念いたします。

歯学部 教授
田隈　泰信

3月末日をもって、43年間の歯学部教員としての務めを終えることになりました。城西歯科大学（現、明海大学歯学部）に7年間、北海道医療大学歯学部には1981年から36年間お世話になり、この間、1年半の米国留学も経験させて頂きました。お陰様でなんとか無事、定年退職の日を迎えられますことを、衷心より感謝申し上げます。

36年前、生化学講座の講師として着任し、講義の準備を始めたとき、大変戸惑ったことを思い出します。それまでの7年間、私は、研究は生化学でしたが、教育では口腔組織学、歯の解剖学という歯学部に特化した領域に携わっておりました。そういう私の目から見ると、生化学の教科書のどこを探しても、歯学部らしい生化学の記述が見当たらないのです。何を講義したらいいか、当惑しましたが、それもそのはず、当時、歯科医師国家試験に生化学の問題はありませんでした。いま生化学の国試問題と悪戦苦闘する学生諸君には、有難迷惑な話かも知れませんが、口腔生化学の体裁が整ったのは、せいぜい最近20年以内のことなのです。

赴任当時、あいの里に近い自宅から、石狩河口橋を渡って、片道35キロの道を車で通っていました。石狩河口からスウェーデンヒルズへの道は、曲がりくねった難所で、吹雪くと路肩から転落する車が続出したものです。あれから幾星霜。3.11の震災以降、工事が加速し、あいの里と太美をつなぐ2本目の橋が、昨年ついに完成しました。高速道路のようなバイパスを走りながら、10年以上、工事の進捗状況を毎日横目に見ながら通勤したことを回顧し、慶賀したものです。

退職前の3年間、私の頭は第58回歯科基礎医学会学術大会のことでいっぱいでした。準備作業から大会終了後の決算報告まで、学会成功のためにご尽力頂いた中澤準備委員長はじめ基礎系全教員の皆様に篤く御礼申し上げます。

最後になりましたが、北海道医療大学の益々の繁栄と学生諸君の健闘を、陰ながら応援しております。長い間、大変お世話になりました。

昇任教員

平成28年12月1日付

歯学部 准教授
（総合教育学系〈歯学教育開発学〉）

門 貴司（かど たかし）

本学歯学部卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。北海道医療大学歯科内科クリニック研修歯科医、同臨床助手、本学歯学部口腔機能修復・再建学系歯周歯内治療学分野講師等を経て、准教授昇任。歯学博士。

平成29年2月1日付

歯学部 准教授
（口腔生物学系〈薬理学〉）

根津 顕弘（ねづ あきひろ）

本学薬学部卒業。同大学院薬学研究科修士課程修了。日本メジフィジックス株式会社、米国国立衛生研究所客員研究員、本学歯学部歯科薬理学講座助手、同口腔生物学系（薬理学）助教、同口腔生物学系（薬理学）講師等を経て、准教授昇任。歯学博士。

歯学部 教授
柴田 考典

2002年9月1日に当大学に赴任し、この3月末で14年7カ月となります。前職（山形大学医学部歯科口腔外科学講座）との差違に戸惑いながら、これまで大きな事件・事故もなく無事過ごせましたことは、多くの皆様からのご指導ご支援のおかげと感謝しております。

着任により「研究および臨床中心の生活」から、歯学部4、5、6学年や大学院生を対象とする「教育中心の生活」への変更ということで、生活は大きく変わりました。

この変化は私の意図したもので、口腔外科学は医師国家試験の対象領域でないことから、前職では徐々に歯科医師養成に直接関与したいと希求するようになっていたからです。

大学人としての私の40年間は、大きく3期に分けられます。修業期としての東京歯科大学口腔外科学第二講座助手期間（1989年3月まで）、発展期としての山形大学医学部歯科口腔外科准教授期間（2002年8月まで）、社会還元期としての本学教授期間に分けられます。

本学に赴任以降は、皆様の協力の下、まず歯学部口腔外科学教育および口腔外科診療体制の改革に注力しました。これら改革は、その後の「臨床実習開始前における共用試験」の正式実施（2005年度）、「歯科医師国家試験の相対評価」導入（2006年、第98回国家試験）、「歯科医師臨床研修の必修化」（2006年4月）等、歯科医学教育・研修を取り巻く大きな環境変化に対応する礎となりました。

歯科医師として現役である間は自己研鑽を休むことはできません。そのために学生諸君には、在学中に少なくとも問題発見能力や問題解決能力の涵養に努めるべく学習目標を掲げて参りました。

一方、2007年7月のあいの里への病棟移転および手術室の新設では、過去の手術部改装の経験を生かし、満足のいく手術室を設置できました。是非活用して欲しいと願っております。

最後になりましたが、皆様のご活躍と本学のご発展を心から願っております。

リハビリテーション科学部 教授
上野 武治

2013年4月、新設のリハビリテーション科学部作業療法学科に赴任し、完成年次の今春、退職します。わずか3年の短い期間でしたが、皆様には大変お世話になりました。

赴任前の7年間は北星学園大学で福祉職の教育を、それ以前は26年間、北海道大学でOT・PTの教育を担当しました。今回、7年ぶりに本学部に赴任して専門教育の急速な発展と充実を強く実感することができました。ただ、この間は泉学部長が本誌前号でも記しているように、学年進行に伴う教育業務の拡大に加え、大学院の開設や言語聴覚療法学科の編入が一挙に行われました。このため、私以上に、実習をはじめ専門教育を担当する教員の負担は非常に大きかったと思います。1期生を送り出した今、医学医療の将来変化を見据えて、この間の教育をしっかり点検・総括し、基礎的教育に力点を置いたカリキュラムの編成を期待します。また、研究途上の若い教員を多く抱える本学科としては、研究に専念できる環境の重要性も理解して欲しいことです。

最後に医療職の教育機関としてぜひお願いがあります。それはあまりにも当然のことですが、教職員と学生の禁煙の徹底です。前任の大学では、本学の、特に幹部教職員のタバコ汚染の酷さを幾度となく耳にしましたが、これは道内私学関係者の共通認識なのでしょう。本学赴任後、JR駅付近の「特区」と称する喫煙所に群がる姿を目にし、歯科クリニック棟のエレベーターでタバコ臭に曝されて納得することができました。さらに、こうした本学の噂は学外の医師の間にも拡がっていることを知りました。医療系総合大学としての魅力を受験生に周知させる活動を展開しながら、医療職教育への信頼を日々傷つけているのでは本末転倒です。本年4月から喫煙所は撤去されるようですが、禁煙の徹底には全学挙げての粘り強い取り組みを要することだけは確かです。

本学の再生した姿を大いに期待しています。

リハビリテーション科学部 教授
亀井 尚

1991年の春、札幌医療福祉専門学校・言語聴覚療法学科長として赴任し、今年の3月にリハビリテーション科学部にて定年退職を迎えることとなりました。26年間にわたる教員生活に区切りの年を迎えることになりますが、「光陰矢のごとし」といった思いです。

赴任当時、専門学校の校舎は「あいの里」にありましたが、ニュータウンが造成中の頃で、「西部劇の舞台のような」風景が広がっていました。開設当初、言語聴覚士の国家資格がなく、学生募集に苦労しましたが、1997年に言語聴覚士法が国会で成立し身分制度が導入されたのを機に、志望学生も増えました。その後、教育の高度化が検討され、2002年、本学心理科学部に言語聴覚療法学科が開設されました。当時は、専門学校と心理科学部の「言語聴覚療法学科長」を併任しており、多忙な日々を送っておりました。専門学校は2年後の2004年3月に閉校しました。その後、リハビリテーション科学部が開設されたことに伴い、2015年からはリハビリテーション科学部言語聴覚療法学科としての所属になりました。

この間、多くの卒業生が「言語聴覚士」として全国津々浦々で活躍している現状をとても誇りに感じます。これからも、人口の高齢化とともにリハビリテーション医療における言語聴覚士の役割が高まっていくと思われます。「北海道医療大学ブランド」を背負った「言語聴覚士」が増えていくことを期待しております。

最後になりましたが、教育活動、研究活動の場を与えていただいた学校法人東日本学園及び北海道医療大学に感謝を申し上げたいと思います。

With heartfelt thanks.

札幌市立高等学校との連携事業「看護職・リハビリ職体験学習プログラム」実施

1月6日(金)、札幌市立高校(札幌旭丘高等学校、札幌開成中等教育学校、札幌清田高等学校、札幌啓北商業高等学校、札幌新川高等学校、札幌平岸高等学校、札幌藻岩高等学校、市立札幌大通高等学校)の学生62名が本学を訪問しました。

昨年に引き続き、5度目となるこの大学訪問は、大学と高等学校の教育活動(授業等)に対する相互支援を目的として行われたプログラムです。看護師、理学療法士、作業療法士と3分野に分かれ、午前中は模擬講義を、午後からは体験実習を行いました。

高校の授業とは違い、職業についての体験など大学ならではの講義に積極的に参加する姿が見受けられました。今回の体験学習プログラムの経験を元に将来の進路選択・決定の助力となれば幸いです。

札幌開成中等教育学校特別講義「プレ先端科学特論」「先端科学特論」を実施

1月10日(火)と11日(水)の2日間にわたり、札幌開成中等教育学校4年生52名を対象に「プレ先端科学特論」を、11日(水)には5年生13名を対象に「先端科学特論」を実施しました。

「プレ先端科学特論」は、「自分の遺伝子を解析してみよう」というテーマのもと、1日目、本学個体差健康科学研究所 太田亨教授と岩手医科大学医学部臨床遺伝学科 徳富智明准教授による遺伝子解析に関する基礎知識の講義と口腔細胞からDNAを抽出する実験が行われました。2日目には、浅香学長による講演終了後、2班に分かれて太田亨教授による玉ねぎからDNAを抽出する実験と徳富智明准教授によるf-tree(家系図作成ソフト)を使用して家系図を作成する講義が行われました。

また、「先端科学特論」は「プレ先端科学特論」参加の生徒とともに学長講演終了後、個体差健康科学研究所 高井理衣助教によるアミラーゼ遺伝子のコピー数多型を解析する実験が行われました。

「プレ先端科学特論」「先端科学特論」どちらに参加した生徒も大学ならではの実験や講義を体験することができ、知識と関心を深める有意義な時間を過ごしたようでした。

札幌北高等学校インターンシップの実施

1月6日(金)、札幌北高等学校1年生10名が札幌あいの里キャンパスの大学病院を訪れ、インターンシップを実施しました。薬剤部、看護部、医療心理室の3グループに分かれ、それぞれの業務における役割の学習や薬剤師・看護師・臨床心理士の体験、施設見学等を行いました。

本学病院におけるインターンシップの経験は、生徒の進路意識や医療関連分野への関心を高め、勤労観ならびに職業観の醸成に役立ったものと思われます。

2017年度 入試結果速報

北海道医療大学

一般前期入試を全国で実施。

本年度は1月30日(月)・31日(火)の2日間の日程で、札幌をはじめ、東北から関東、関西、九州までの全国12会場で一般前期入試を実施しました。総志願者は、2,644名でした。

センター前期入試は募集回数が2回。

センター前期Aは3教科型、センター前期Bは2教科型入試です。それぞれの日程に出願できるので、両方に出願した場合は合格のチャンスが2回に増えます。志願者数は、1,578名でした。

編入学2期に9名の志願。

編入学試験を札幌、東京、大阪の3会場で実施しました。全体で9名の志願がありました。

■2017年度 編入学試験(2期)結果

※( )内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
薬学部 ●薬学科	社会人	3(3)	1(1)	1(0)	0(0)	−(−)
	一般		0(4)	−(4)	−(0)	−(−)
歯学部 ●歯学科	2年次	若干名(若干名)	2(7)	2(7)	2(1)	1.0(7.0)
	3年次		1(2)	1(2)	0(0)	−(−)
看護福祉学部 ●看護学科	社会人	3(3)	0(0)	−(−)	−(−)	−(−)
	一般		0(0)	−(−)	−(−)	−(−)
●臨床福祉学科	社会人	3(3)	0(0)	−(−)	−(−)	−(−)
	一般		2(0)	2(−)	2(−)	1.0(−)
	指定校		1(0)	1(−)	1(−)	1.0(−)
心理科学部 ●臨床心理学科	社会人	若干名(若干名)	0(0)	−(−)	−(−)	−(−)
	一般		2(0)	2(−)	0(−)	−(−)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	社会人	2(2)	0(1)	−(1)	−(1)	−(1.0)
	一般		0(1)	−(1)	−(1)	−(1.0)
●作業療法学科	社会人	2(2)	0(0)	−(−)	−(−)	−(−)
	一般		0(0)	−(−)	−(−)	−(−)
●言語聴覚療法学科	社会人	3(−)	0(−)	−(−)	−(−)	−(−)
	一般		0(−)	−(−)	−(−)	−(−)
合計		−	9(16)	9(15)	5(3)	1.8(5.0)

※2017年度より、リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科の編入学試験を実施。

■2017年度 一般・センター前期入試結果

※( )内は前年度実績

学部・学科名	入試形態		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率
薬学部 ●薬学科	一般前期入試	1/30	65(65)	208(224)	203(220)	127(135)	2.8(2.8)
		1/31		163(170)	151(162)		
	センター前期入試	A	15(15)	182(216)	182(216)	69(63)	2.6(3.4)
		B	10(10)	80(77)	80(77)	27(26)	3.0(3.0)
歯学部 ●歯学科	一般前期入試	1/30	25(25)	59(70)	55(67)	65(73)	1.5(1.7)
		1/31		43(63)	40(56)		
	センター前期入試	A	6(6)	99(153)	99(153)	86(114)	1.2(1.3)
		B	4(4)	42(58)	42(58)	41(45)	1.0(1.3)
看護福祉学部 ●看護学科	一般前期入試	1/30	40(40)	383(309)	372(304)	114(101)	5.8(6.3)
		1/31		304(336)	291(332)		
	センター前期入試	A	8(8)	187(195)	187(195)	46(45)	4.1(4.3)
		B	6(6)	91(92)	91(92)	25(25)	3.6(3.7)
●臨床福祉学科	一般前期入試	1/30	23(23)	108(86)	106(83)	110(106)	1.7(1.7)
		1/31		85(95)	82(93)		
	センター前期入試	A	6(6)	66(84)	66(84)	60(76)	1.1(1.1)
		B	4(4)	46(66)	46(66)	46(66)	1.0(1.0)
心理科学部 ●臨床心理学科	一般前期入試	1/30	24(24)	156(134)	153(130)	148(154)	1.8(1.7)
		1/31		114(138)	111(135)		
	センター前期入試	A	8(8)	123(133)	123(133)	90(89)	1.4(1.5)
		B	6(6)	55(82)	55(82)	52(55)	1.1(1.5)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	一般前期入試	1/30	30(30)	223(183)	220(179)	69(73)	5.5(4.8)
		1/31		161(177)	158(172)		
	センター前期入試	A	7(7)	168(147)	168(147)	37(38)	4.5(3.9)
		B	6(6)	65(72)	65(72)	22(21)	3.0(3.4)
●作業療法学科	一般前期入試	1/30	14(14)	215(177)	211(172)	96(92)	3.8(3.9)
		1/31		160(190)	155(185)		
	センター前期入試	A	4(4)	153(160)	153(160)	58(50)	2.6(3.2)
		B	3(3)	69(79)	69(79)	32(35)	2.2(2.3)
●言語聴覚療法学科	一般前期入試	1/30	14(14)	148(124)	147(120)	111(102)	2.3(2.5)
		1/31		114(134)	112(132)		
	センター前期入試	A	8(8)	99(123)	99(123)	64(67)	1.5(1.8)
		B	6(6)	53(75)	53(75)	42(40)	1.3(1.9)
合計	一般前期入試	1/30	235(235)	1,500(1,307)	1,467(1,275)	840(836)	3.1(3.0)
		1/31		1,144(1,303)	1,100(1,267)		
	センター前期入試	A	62(62)	1,077(1,211)	1,077(1,211)	510(542)	2.1(2.2)
		B	45(45)	501(601)	501(601)	287(313)	1.7(1.9)

認定看護師研修センター修了式を実施

平成28年12月8日(木)、平成28年度認定看護師研修センターの修了式を行いました。

5月の入学時より7カ月にわたる講義・演習・実習を経て、皮膚・排泄ケア分野18名、感染管理分野19名、認知症看護分野15名、合計52名の研修生が、各教育課程を修了し、翌5月の認定看護師資格認定試験に挑みます。

多くの役員、ご来賓の見守る中、各分野の修了生代表が、認定看護師として医療の現場に立つことへの決意と、7カ月をともにした仲間たちとの絆の大切さを述べ、式を締めくくりました。

薬学部

〈創立年:1979年　会員数:約5,300名〉

薬学部
同窓会会長
田中　稔泰

薬学部同窓会は1979年に発足し、全国17の支部(道内7、道外10支部)で活動を行っておりますが、近年は会員数の増加に伴い北海道内においては、支部の細分化の動きが出ているところであります。また、道外では逆に卒業生が減少していることから、本州支部の統合も含めて考えていかなければならない状況となってまいりました。各支部の活動におきましては、多くの支部では、医療薬学セミナーと同時に支部総会や懇親会を開催し、その地域での薬業や医療に関する情報交換を行っているところであります。最近では歯学部や他学部の同窓会とも連携したセミナーの開催が行われている支部もあり学部の枠を超えた活動が始められております。同窓会の活動はこのように会員同士の交流を深めながら、それぞれの仕事やモチベーションを高めることを一つの目標としておりますので、全国の同窓生が一様に参画できるよう支部役員の協力を得ながら活性化を図ってまいりたいと考えております。また、大学への寄与に関しては、在学生も同窓会の準会員としておりますので、入学時に行われる定山渓温泉での宿泊研修にも同窓会として参加し、卒業生の講演や新入生の交流が深まるようゲーム大会等を開催しているところであります。また、入学時に一部の学生を対象とした国語力養成講座を3年前より開設し行っており、今後は別の基礎教育講座の開設も検討しているところであります。また、卒業生の医療薬学セミナーへの参加や相談会なども開催予定であり、我々同窓会としても、入学時から学生に対しての支援活動を通して、大学に寄与できるよう努力してまいりたいと考えております。

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~phalumni/

歯学部

〈創立年:1984年　会員数:約3,100名〉

歯学部
同窓会会長
蓑輪　隆宏

1期生が卒業して設立された同窓会も2014年で30周年を迎え、記念講演会・記念式典・記念祝賀会を開催しました。支部は北海道から沖縄まで全国26支部に増え、海外も含め3,000人を超える同窓生が活躍しております。各地で開催される歯科臨床セミナーや学術講演会、最近では他学部の同窓会と合同で開催される地区もあり、学びの場であると同時に親睦交流を深める大変貴重な場となっております。また、同窓会と学内教職員との「歯学部の未来を語る会」を3回開催し歯学部の将来に危機感を持った皆様から忌憚のない意見が出され、現状の認識を共有し学部発展への思いが基となり、現在の学生や学内の先生たちへの応援活動に繋がっています。新入生オリエンテーションの応援、国語補修講義や海外臨床研修の費用の補助、同窓生による学外臨床研修の受け入れ、OBによる応援講義、同窓会賞などはその一例です。これらの活動を支えているのは設立30周年の際の寄附を基に創設された「歯学部未来基金」です。今後も会員の親睦と学部の発展に寄与するという設立目的に沿った活動を続けていきます。

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~d-alumni/
dousoukai-honbu@clock.ocn.ne.jp
事務局 札幌市北区北6条西6丁目2-11 第3山崎ビル4F
TEL 011-299-9069　FAX 011-299-9609

看護福祉学部／看護学科・札幌医療福祉専門学校／看護学科

〈創立年:1997年　会員数:約2,400名〉

看護学科
同窓会会長
川村　武昭

福慧会(看護学科同窓会)は1997年に発足して、お陰さまで20年目を迎えることができ、初めての試みではありますが、2017年7月に記念講演会・祝賀会を開催することといたしました。この場をお借りして、日頃から御尽力をいただいております同窓生の皆さまを始め、大学並びに諸関係団体の皆さまに深く深く感謝申し上げます。

主な活動内容としましては、臨床福祉学科との協働で取り組む看護福祉学部同窓会セミナーと看護福祉学部学会の企画及び運営を主軸に、4学部及び歯科衛生士専門学校とともに協働で開催しております北海道医療大学同窓会コラボ☆講演会があります。また、これらの活動状況や各地で活躍する同窓生の近況報告等を同窓生の皆さんにお伝えする会報誌(Fukuekai)の発行やホームページの運営、そして同窓生同士の繋がりを保つものとして会員名簿の管理を行っています。また、同窓会活動について検討するために理事13名(今年度、新たに2名加わりました)で構成される同窓会理事会を定期的に開催しています。

現在、会員数は2,000名を超え、数年前からは他学部の同窓会と協働で活動するようになりました。会員数の増加と活動の広がりとともに考えさせられることは、同窓会とは何か、誰のために何を目指す活動なのか、そして活動に携わる私たち自身の存在意義とは何かということです。仕事をしながら、家庭を持ちながら、家族や友人との繋がりを持ちながら、たくさんの「ながら」を両手いっぱいに抱えてもなお私たち同窓会理事が時間の合間を縫って集い、真剣に意見を言い合うことに答えがあるように感じられる今日この頃です。

これからも様々な場所で日々奮闘している同窓生がお互いの繋がりを感じられる活動を目指していきたいと考えております。そのために各期の幹事と理事13名が同窓生として、そして同じ医療人として安心して語り合えるように同窓会セミナーや各種講演会、クラス会等の機会を設けていきたいと考えております。これからも会報誌やホームページをとおして様々な活動状況をお伝えして参りますので時々目をとおしていただけると有り難いです。皆さまからのご意見やご要望をいつでもお待ちしております。

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~kango/
kango@hoku-iryo-u.ac.jp

看護福祉学部／臨床福祉学科・札幌医療福祉専門学校／介護福祉学科

〈創立年:2000年　会員数:約2,100名〉

臨床福祉学科
同窓会会長
小畑　友希

関係者の皆様には、同窓会活動に対して多大なるご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。北海道医療大学は、チーム医療を担う人材を養成しており、学生時代から他職種連携教育を充実させています。同窓会でもその学びを生かし、2016年度の看護福祉学部同窓会セミナーIでは、「地域包括ケアの今とこれから」について、福祉職、看護職それぞれの役割を含め研修しました。また、同窓会セミナーII(看護福祉学部学会共催)は、運営の協力、「コラボ☆講演会」は他学部同窓会との連携事業となっています。今年度は看護学科同窓会と合同役員会も行いました。このように卒業後も多種種連携の学びは継承されています。

そして、現在次年度の定期総会に向けて役員会を中心に議論している最中ですが、当同窓会の新たな活動として、専門分野ごとに部会を立ち上げたいと考えております。このことにより、会員相互の交流や研修活動も促進されるのではないかと思います。同窓会ホームページでは、卒業生によるリレーエッセイや活動報告等も掲載していますので、合わせてご覧いただければと思います。

今後とも皆様のご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

fukudo@hoku-iryo-u.ac.jp

心理科学部／臨床心理学科

〈創立年:2006年　会員数:約600名〉

臨床心理学科
同窓会会長
上河邉　力

平素より同窓会活動への格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本年度も当同窓会の中心的活動である同窓会セミナーは、2回の実施を企画しております。第1回はこどもの発達支援に長年携わってこられた犬塚実先生をお招きし、子どもやその親と関わってきた40年の臨床経験の中から感じたことや考えていることをお話ししていただきました。第2回には、理学療法士の遠藤晃祥先生をお招きし、行動分析学を取り入れた認知症リハビリテーションについてお話いただく予定です。近年の特徴としてセミナーへの在学生の出席が増加しており、在学生が卒業生や専門家とのつながりを持つことのできる貴重な機会となっています。

最後になりますが、本年度から第6期役員体制で活動を開始しております。今後も前役員との連携を保ちつつ、これまでの活動基盤を引き継ぎながらもさらに発展できるように尽力して参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~p.dousou/
shinri-dousoukai@hotmail.co.jp

心理科学部／言語聴覚療法学科・札幌医療福祉専門学校／言語聴覚療法学科・言語聴覚療法専攻学科

〈創立年:1994年　会員数:約1,000名〉

言語聴覚療法学科
同窓会会長
石黒　恵美子

当会は講演会の企画・運営や年に2回の会報の発行を通し現役生・卒業生の皆様への情報提供を中心に活動しております。今年度は、2016年6月25日(土)に言語聴覚療法学科同窓会セミナーを開催しました。本学教授の亀井尚先生を講師にお招きし「失語症のスクリーニング」をテーマに、臨床場面に生かせる基礎から最新の知見まで貴重なお話をうかがいました。活発な質疑応答が行われ、参加の皆様より大好評をいただきました。現在は2017年3月11日(土)第10弾コラボ☆講演会(摂食嚥下)、同6月24日(土)同窓会セミナー(小児分野)の開催に向け鋭意準備を進めております。ぜひ多くの皆様にご参加いただきたいと存じます。最後に、この場をお借りし東日本学園後援会の皆様・内外の先生方のご理解・ご協力を賜り、滞りなく当会の運営を行えていますことに、深く御礼申し上げます。

st-kai@hoku-iryo-u.ac.jp

北海道医療大学同窓会支部連絡先

■薬学部

支部名	支部長(期)	連絡先
札幌支部	多田 正人(4)	☎011-812-2311
道北支部	沼野 達行(10)	☎0166-32-8181
十勝支部	石原　敦(3)	☎0155-28-3344
道南支部	吉田　元(12)	☎0138-27-7727
釧根支部	羽田野 貴志(11)	☎0154-32-1337
オホーツク支部	新井　俊(10)	☎0157-31-3310
日胆支部	山田 達生(2)	☎0142-76-5258
青森支部	三上　章(1)	☎017-729-0330
栃木支部	橋本 秀雄(3)	☎0285-54-5080
茨城支部	西野 郁郎(1)	☎0293-42-0239
北越支部	本間 信哉(3)	☎0254-26-7676
神奈川県支部	川田　哲(3)	☎045-742-2301
東海支部	高尾 信彦(2)	☎053-451-0821
関西支部	山口 和俊(9)	☎0721-28-6261
中四国支部	勝原　聡(3)	☎082-291-2104
九州支部	山田 昌人(3)	☎0965-52-5750
沖縄支部	村田 成夫(4)	☎098-956-1093

■歯学部

支部名	支部長(期)	連絡先
北海道支部連合会	佐藤　明理(4)	医療法人社団明雄会そのまち歯科 ☎011-387-8811
青森県支部	佐藤　孝治(2)	佐藤歯科医院 ☎0172-36-0412
秋田県支部	竹内　享(7)	竹内歯科医院 ☎0182-22-2001
岩手県支部	渡辺　昌文(7)	わたなべ歯科 ☎0197-61-2911
	高野　玄(18)	高野歯科クリニック ☎0197-23-2488 ※4月1日以降は、こちらの連絡先に変更になります。
宮城県支部	佐々木 隆二(6)	ささき歯科 ☎022-383-8849
山形県支部	芳賀　俊和(5)	芳賀歯科医院 ☎0238-84-8107
福島県支部	外島　昭夫(7)	ホワイト歯科医院 ☎0248-75-3238
茨城県支部	秦　博文(2)	社会医療法人愛宣会ひたち医療センター ☎0294-37-0713
栃木県支部	斎藤　真一(3)	斎藤歯科クリニック ☎0285-27-1234
群馬県支部	篠崎　広治(1)	しのざき歯科医院 ☎0276-48-0118
埼玉県支部	堅木　浩樹(5)	ヒロデンタルクリニック ☎049-232-4432
千葉県支部	寺山　功(4)	葉山歯科医院 ☎0471-64-6480
東京都支部	蛯名　勝之(5)	エビナ歯科医院 ☎03-3200-4818

支部名	支部長(期)	連絡先
神奈川県支部	宮平　暁(5)	みやひら歯科 ☎045-590-4601
山梨県支部	白壁 正光(8)	しらかべ歯科医院 ☎0555-72-4182
長野県支部	小池 文一(2)	小池歯科医院 ☎026-224-1482
新潟県支部	山下 克弥(9)	わかば歯科医院 ☎0258-83-1010
富山県支部	藤川　晃(5)	藤川歯科医院 ☎0764-83-2231
石川県支部	久保 伸一郎(2)	粟津歯科医院 ☎0761-44-4852
愛知県支部	木村 英雄(1)	このめの歯科医院 ☎052-451-1182
京都府支部	橋本 昌美(6)	こがはしもと歯科医院 ☎075-935-8148
大阪府支部	西　一幸(1)	西歯科医院 ☎06-6793-7500
広島県支部	早志 卓展(6)	たかひろデンタルクリニック ☎082-422-9600
四国支部	谷本 良司(3)	医療法人谷本歯科医院 ☎0883-42-2069
九州支部	清川 宗克(3)	清川歯科・口腔外科クリニック ☎092-822-8805
沖縄県支部	玉城　均(1)	ながた歯科医院 ☎098-854-1182

■看護福祉学部

☎0133-23-1211

○**看護学科**(内線3641)担当:明野(実践基礎看護学講座)
○**臨床福祉学科**(内線3708)担当:池森(医療福祉臨床学講座)

■心理科学部

☎011-778-8931(学務部 心理科学課)

○**臨床心理学科**
○**言語聴覚療法学科**

歯学部附属歯科衛生士専門学校

〈創立年:1991年　正会員数:約1,100名、準会員:47名〉

歯科衛生士専門学校
同窓会会長
梶　美奈子

2017年春に31期生の皆様を同窓会員として迎え、本同窓会は1,000名を超える大所帯となります。中には母娘共に同窓生という方もいらっしゃいます。

卒業式や入学式などで母となった旧友と対面することは、嬉しくもこそばゆい、なんとも表現し難い感じがするものです。そんな沢山の同窓生に見守られながら、新入生オリエンテーションへの協力をはじめ、3年間使用できる同窓会名入りの鉛筆を入学時に配布し1年生時から親子共に同窓会の存在を意識していただいております。また、著名な講師をお招きしての歯科衛生士公開講座。2016年は、テレビでもお馴染みの藤野良孝先生をお招きしてご講演いただき過去最高の反響を得ました。更には、卒業前の3年生への国家試験激励や講義を行うなど、常に本同窓会は学校と密に連携を持ち続けております。

それと同時に、他学部と一緒にコラボ講演会にも参加させていただき、在学中から卒業後も継続して連携の重要性を学び続けて行くことができる体制を整えております。

http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~katakuri/
okahashi@hoku-iryo-u.ac.jp

歯学部附属歯科衛生士専門学校同窓会支部連絡先

北海道医療大学歯学部附属歯科衛生士専門学校　☎0133-23-1211(内線3482)担当:大山・岡橋

卒業生を対象とした各セミナー・公開講座に関するお問い合わせ先　広報・教育事業部 教育研究推進課　☎0133-23-1129(直通)　e-mail:nice@hoku-iryo-u.ac.jp

リハビリテーション科学部・井上恒志郎助教が明治安田厚生事業団「第33回若手研究者のための健康科学研究助成」を受賞

平成28年10月21日（金）付で、本学リハビリテーション科学部・大学教育開発センターの井上恒志郎助教が「第33回（2016年度）若手研究者のための健康科学研究助成（公益財団法人・明治安田厚生事業団）」を受賞し、12月16日（金）に学士会館で行われた助成金贈呈式に参加しました。

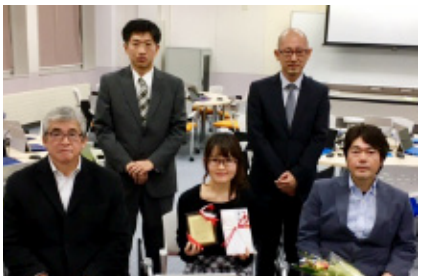
本助成金は、健康科学の一層の発展と人びとの健康づくりに貢献する若手の研究に対して贈られるものです。井上助教は、「一過性中強度運動による海馬CA1を介した記憶固定化の促進に関わる神経機構の解明—逆行性トレーサーを用いた検討—」という研究テーマで応募し、111件の一般課題の中から見事に採択されました（採択件数10課題）。

井上助教は、これまでの研究において、学習後に運動を行うと記憶の定着（固定）が増強され、それが海馬のCA1と呼ばれる領域を介して調節されていることを報告しています。この海馬CA1は、中脳腹側被蓋野や扁桃体など、情動を司る様々な脳部位からの入力を受けており、今回の研究課題では、運動によるどのような情動変化が海馬CA1を介した記憶固定化の促進に寄与しているのかを解明することを目的にしています。情動という新たな視点から運動による記憶定着の増強を担う機構解明に取り組むユニークな研究として、今後の研究推進が期待されます。

薬学部・二瓶裕之教授、心理科学部・西牧可織助教が、私立大学情報教育協会の「ICT利用による教育改善研究発表会 平成28年度 奨励賞」を受賞

私立大学情報教育協会の「ICT利用による教育改善研究発表会」において、本学薬学部・二瓶裕之教授（情報センター長）、心理科学部・西牧可織助教（大学教育開発センター）が発表した研究テーマ「ICT活用による能動的学修支援と学修成果の可視化を融合させた教育改善の実践」が「平成28年度 奨励賞」を受賞しました。

この研究は、能動的学修を全学的に推進するために、電子シラバスを開発して毎回授業の到達目標や事前・事後の学修課題及び資料などの学修情報を一括提示し、ICTを活用して学生の学修行動をモニタリングして学修成果を多角的に可視化、フィードバックすることで学生・教員に振り返りが可能となり、反転授業と協働学修を組み合わせた学修成果の改善、知識修得に向けた主体性の育成につながる教育改善が見られたことが高く評価され、今回の受賞となりました。



前列左から:森田勲教授、西牧可織助教、二瓶裕之教授
後列左から:歳桃淳・学務部職員、阿部大地・同

学友会の活動について

「学友会」は学生の課外活動組織で、学友会長（学長）の下、「体育局」「文化局」「大学祭実行委員会」から構成され、学生により運営されています。体育局、文化局では、各局所属のクラブ・同好会から選出された学生が局長・次長・局員となり、クラブ間の調整や取りまとめ、またイベントの企画や実施を行い、大学祭実行委員会では委員長・副委員長の他、会計や広報など機能別の役割担当が置かれ、学生による大学祭の企画・運営が行われています。

学友会組織をまとめ、運営方針の策定や調整をはかるために「学友会運営委員会」が置かれています。この委員会は、体育局長・次長、文化局長・次長、大学祭実行委員長・副委員長、各学部学生部の教員から構成され、学生が議長となり、主にクラブ・同好会の新設・改廃・昇降格や学友会予算の運用・執行について協議しています。また、各クラブの戦績報告や、大学祭の企画の精査および実施報告、学友会施設について等、学生の課外活動に係る事項について総合的に議題に取り上げられています。

学友会はSCPと共に学生の代表とも言える組織です。学友会所属団体のみなさんで、学生生活をより良く過ごすための意見や要望がありましたら、各局長や委員長までお寄せください。

■学友会年間行事予定

4月	新入生オリエンテーションにて、活動紹介（大学祭実行委員会）およびクラブ紹介（体育局・文化局）
5月	学友会運営委員会
6月	九十九祭（大学祭実行委員会）
7月	学友会運営委員会
8月	全日本歯科学生総合体育大会（体育局所属クラブ参加）
9月	
10月	
11月	文化週間（文化局） 秋季球技大会（大学祭実行委員会）
12月	
1月	
2月	
3月	

第9期 SCP（学生キャンパス副学長）が決定しました

第9期Student Campus President（学生キャンパス副学長）が、薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部から各1名、選挙により選出されました。選ばれた5名の学生は、学長よりユニフォーム（ブレザー）が授与され、正式にSCPとして任命されます。

SCPは、より良い大学づくりのために学生代表が教職員とともに各種プロジェクトの企画・立案を行い実施する、全国でもめずらしい北海道医療大学独自の制度です。

また、オープンキャンパスなどの大学行事参加や学生代表としての学内会議出席、そして外部機関研修会での講演、雑誌取材対応やイベント参加など学内外で北海道医療大学の顔としての活動も行っています。

本学では、各SCPのアイディアを実現してもらうため、活動費やキャンパス内に設置されたSCP室の提供、教職員および卒業生の協力などのサポート体制も充実しています。

SCPの多岐にわたる活動は、全国から大変注目されています。SCP活動状況については、随時、下記SCPホームページやブログにて報告いたします。

SCPホームページ http://scp.hoku-iryo-u.ac.jp/

第9期SCPよりご挨拶

薬学部
神 陽太
（じん ようた）

大学の持つ特色を強く引き出す

私は他学部との交流に加えて、地域社会とのより良い関係作りの場を、SCPとして考え、生み出していきたいです。

今の医療が求めているのは個の力よりも、異なる職種間で対等に連携し、患者中心の医療を行うことが出来る能力です。医療系の総合大学である北海道医療大学は、その能力の育成にふさわしい環境であると考えています。

しかし、他学部との交流の場は限られ、所属する学部以外の内容に触れる機会が少ないのが現状です。

私がSCPになりましたら、地域の人たちのご協力を得て、学生が能動的に参加し、なにより継続的に行えるイベントの企画をしたいとおもいます。

私はもとより経験の浅い若輩者ではございますが、未熟ながら、北海道医療大学の発展に精一杯努力する所存です。よろしくお願いいたします。

歯学部
山中 大寛
（やまなか まさひろ）

ご挨拶

皆様こんにちは。この度SCPに立候補いたしました歯学部4年山中大寛です。今回で2期目の立候補になります。1期目は途中からの立候補となり、あまり多くの活動を行うことができませんでした。今回2期目の立候補に当たり、これまで行うことができなかったことをしていきたいと思います。

九十九祭や球技大会などの多くの学生が参加できるような、そして参加して思い出になるようなイベントを企画していきたいと思っています。

学外に向けては、当別町をはじめ地域のイベントに積極的に参加できるような機会を作り、また、チーム医療を大切にする本学だからこそできることを、積極的に発信していきたいと思います。

これからの活動に歯学部をはじめ、全学の多くの学生の皆様の意見が大切になります。皆様と一緒により良い北海道医療大学を作っていきたいと思います。どんな些細なことでも構いませんので、積極的な参加とご意見をお待ちしております。よろしくお願いいたします。

看護福祉学部
井坂 勇太
（いさか ゆうた）

大学を学生で創る

私がSCPになりましたら、大学を学生が充実した有意義な時間を過ごせる場所にしていきたいです。

大学は学生が一日の大半を過ごす場所であり、学生が学生生活に充実感を持って日々を送るには、大学内での居心地が大きく影響しているように思います。

そのため学生それぞれが「こんなことがあったらいいな」等と持っているアイディアを集めて大学に反映させ、「大学を学生で創る」ことに向けた活動を進めていきます。他の9期のSCPと協働して学生中心の大学づくりに向けて頑張ります。よろしくお願いいたします。

心理科学部
森田 潮音
（もりた しおね）

より楽しく学生生活を過ごせるように

私がSCPになりましたら、学生の皆さんがより過ごしやすく、より楽しく過ごせるそんな大学を作っていきたいと思っております。

例えば昼休みの食堂の混雑だったり登下校時のエレベーターの混雑だったり、小さなことでも今よりももっと良くなることはないかを常に探していきます。

そして皆さんの意見要望に耳を傾け何事にも一生懸命取り組んでいきたいです。

至らない点も多いと思いますが、一生懸命やっていきますので、どうぞよろしくお願いします。

リハビリテーション科学部
中川 陽亮
（なかがわ ようすけ）

学年を超えた繋がりを

私がSCPになりましたら、大学生活や勉強の面で学年の枠を越えた繋がりを持てるような活動をしていきたいと思っております。

学年を越えた繋がりは、これからの北海道医療大学の良い伝統になると考えます。

そのために皆さんの意見や要望に真摯に耳を傾け、精力的に活動を行っていきたいと思っております。そして、活動を行う上で新たに浮上する課題に対しても、課題の改善のために他学部のSCPとも協力し、努力していきます。

精一杯頑張りますので宜しくお願い致します。

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、
学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。
今回は福間麻紀講師と吉田晋教授のお二人に、
当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代

看護福祉学部
臨床福祉学科
講師　福間 麻紀

私は北星学園大学の社会福祉学科で心理学を学びました。子どもの頃から歴史や遺跡が好きで、将来は考古学を学びたいとずっと思っていましたが、進路選択時の友人との何気ない会話がきっかけで（内容は覚えていないのですが）心理学に興味を持ち目指すことに決めました。このような経緯だったため、自分としては本当にこの選択でよかったのだろうかという思いがぬぐえぬままの入学となったわけですが、講義は面白く友人にも恵まれ、大いに大学生活を楽しみました。特に時間とエネルギーを費やしたのがクラブ活動と卒業論文です。

バドミントン部で体育大会に参加
（下から2段目の左端が私）

クラブ活動は初期費用が掛からないという理由で高校時代に引き続きバドミントン部に入りました。選手として強いわけでもなく、大学のサークルだからそれほど厳しくないだろうという甘い考えは見事に裏切られ、練習はほぼ毎日で、部員が少ないために団体戦の選手にもなり、しっかり取り組まざるを得ない状況に。その分先輩後輩ともに仲がよく、一緒に食事や遊びに行くことも多く、一人暮らしの身には有難い関わりだったなと思います。

卒業論文は、当時ワープロの時代だったので、実験のためのプログラムの作成ができるパソコンが指導教授の研究室にしかなく、ゼミの友人と夏休みからずっと研究室に入り浸っていました。何度やり直しても思うように作動せず、「わからない!」と先生に泣きつくと、「わからないことがわからないんだよね…」と言いながらも丁寧に指導してくださいました。また、締め切り近くにはゼミ生みんなが朝から晩まで研究室でワープロを打つ日々が続き、「今日は早く帰って子どもをお風呂に入れたいんだよ…」と独り言のようにつぶやきながらもつきあってくださいました。

卒業論文提出後に研究室で
（前列左端が私）

大変なことも多々ありましたが、サークルやゼミの友人、指導してくださった先生の支えが合って乗り越えられたのだと改めて思います。私の人生においてかけがえのない人たちと出会えた学生時代でした。

私の学生時代

リハビリテーション科学部
理学療法学科
教授　吉田 晋

自分の学生時代はあまり誇れたものではありません。第一志望の大学が不合格で、仕方なく(?)選んだ道が理学療法でした。年間3万円程度という破格の学費に惹かれ、国立仙台病院附属リハビリテーション学院という養成校へ入学するのですが、やる気もなく入学しているので、当然勉強には身が入らず、3年生の臨床実習が始まるまではバイトに明け暮れる毎日で、1講目にちゃんと出席した記憶があまりありません。遅刻、欠席にとてもシビアないまの学生さんたちをみていると、当時は呑気で良かったなと思います。

実習前の集合写真。上段真ん中のやる気のない青年が自分。

バイトは飲食業を中心に深夜まで頑張っていました。バイト代の大半はお酒と娯楽に消えていったように思いますが、最後に働いていた居酒屋では、その実力を高く評価していただき、新店舗の店長候補にもなっていました。一瞬、「こっちの世界で頑張らないか」との社長のお誘いに心揺らぎ、親に相談したのですが、当然猛反対にあい断念。もしあのまま飲食業界に身を置いていたら今頃違った人生を歩んでいたのではないかと空想しています。

そんな自分が変わるきっかけは臨床実習でした。患者さんを前にすると、変な責任感みたいなものが湧いてきて、ものすごく勉強したことを思い出します。回復が停滞していた脳卒中の患者さんを自宅へ退院させるために、色々なことを考え、工夫をしていました。結果的に目標を達成し、自宅退院させられた時の達成感と、あの時の患者さんとご家族の笑顔が現在の自分へと導いてくれたのだと思います。

寮費も無料で、夜な夜な飲み会が開催されていました。

入学時にはまったくやる気もなく、居酒屋の店長になっちゃおうかとさえ考えていた自分が、卒業後、働きながら大学、大学院へと進学し、気がつけば教える側にいる…実習で出会った患者さん、指導してくださった先生、欠席した講義のノートをコピーしてくれた友人たち…何が欠けても今の自分は無いのだなと思うと、とても感慨深い気持ちがします。

成績不良の学生さん、不本意入学でやる気の出ない学生さん。きっと君たちにもそんな素敵な出会いが待っているかもしれません。まだあきらめるのは早いですよ。

心理科学部
臨床心理学科 編

OB訪問

札幌芸術の森に隣接する「ときわ病院」に勤務する上河邉さん。児童精神科、一般精神科で臨床心理士として活躍しながら、新しい風を起こす団体を立ち上げ、さらには母校の教壇にも立つ、卒後4年目とは思えないマルチな活躍ぶりを紹介します。

ときわ病院（札幌市） 臨床心理士
上河邉（かみこうべ） 力（ちから）さん

（心理科学部臨床心理学科2011年3月卒業、
大学院心理科学研究科臨床心理学専攻2013年3月修了）

できることはできる時に

上河邉さんは高校時代、多彩な職業を紹介する書籍で知った「臨床心理士」の仕事の魅力にひかれて、本学に入学しました。在学中は主に療育に関わるボランティア、塾講師や家庭教師のアルバイトと学業を両立させ、3年次には本学で受験資格が得られる産業カウンセラーの資格を取得。臨床心理士をめざして迷わず進んだ大学院在学中には、後の就職先となるときわ病院で心理士としての臨床活動もスタートさせました。自らの可能性を広げ続ける上河邉さん、昨年は本学の特別講師として発達心理学の講義を担当。さらに国家資格化されたキャリアコンサルタントも取得しました。多忙な毎日ですが、学会発表や論文発表にも本学在学中から変わらず意欲的に取り組んでいます。

医療・福祉の枠を超えて

上河邉さんの主な業務は、成人を対象とした一般精神科と児童精神科外来「ときわこども発達センター」での医師との連携による心理検査、カウンセリングです。加えて、併設のデイサービスのスタッフ（保育士、作業療法士、教員免許等をもつ療育スタッフ、言語聴覚士など）との情報共有、スタッフへの心理学的見地からのアドバイスも重要な役割です。病院は医療、デイサービスは福祉と異なる分野ではありますが、上河邉さんはじめ臨床心理士は両分野の枠を超えて活動しています。医療と福祉、双方の視点の融合が、子育て支援をはじめ、心の悩みや発達に不安のある子どものすこやかな成長をめざす実践的取り組みを可能にしています。

大学院の授業の一環で江差町の中学生に劇でストレス対処法を伝えました。「準備から本番まで仲間と力を尽くした思い出」（上河邉さん）。町と学校から感謝状を頂き、「やりがい」を感じた授業の一つです。

2度の苦い経験に学ぶ

若いながらも心理のプロとしての落ち着いた雰囲気を漂わせる上河邉さんですが、そのベースには本学在学中の2度の苦い経験がありました。1度目は学部生の頃、アルバイト先の塾で教え子からリストカットについての相談を受けたとき。「かける言葉も、とるべきリアクションもわからなかった。心理学を学んでいるのに。自分が情けなくて、ずっと心に引っかかっていました」。その後、自傷は上河邉さんの卒業論文、大学院での研究テーマになりました。研究も進み、少し自信もついた大学院2年目、研修で重度自閉症の子を担当し、2度目の強烈なパンチに打ちのめされました。「小学校のボランティア経験もあって『子どもは得意』とうぬぼれていたんです。ところが言葉のコミュニケーションが取れず、私の存在を意識すらしてもらえない現実。自分が見てきた世界とは全く違う世界があることに、がく然としました」。時間をかけて絵カードを使うコミュニケーションが可能にはなりましたが、いまだにあの時ああしていたら、こうしていたら、と幾度も思い返すことがあるそうです。

ときわ病院では全臨床心理士の半数、5人が本学の卒業生です。写真左から高木梨帆さん（2016年3月大学院修了）、上河邉さん、上河邉さんの1期先輩・大野哲哉さん、他大学出身の坂岡さん。若々しくなごやか、チームワーク抜群の職場が患者さんの安心感につながっています。臨床心理士は一般精神科では白衣姿、こども発達センターでは私服で仕事をしています。

心理学が変えたもの

「心理学が自分を変えた」と、上河邉さん。「我が強く、理屈っぽく、人の意見に耳を貸さない自分を崩してくれたのが心理学です。価値観の多様性、異なるものを認める大切さを心理学から教わり、世界を見る目が変わりました」。

いま、上河邉さんの思いは一つの大きな夢に向かっています。それは、心理学を身近なものにして広く社会に役立てること。「心理学はサービスを求めて来た人への提供にとどまっていますが、それではもったいない。障がいのある人だけでなく、すべての人に役立つことを発信していきます」。その第一歩として3年前、同じ志をもつ臨床心理士と共に北海道心理臨床次世代の会を立ち上げました。

上河邉さんは、自ら実感した心理学の有効性を多くの人に伝えるために、これからも意欲的な活動を続けていきます。

上河邉さんは本学の臨床心理学科同窓会会長も務め、セミナーの企画・運営なども担当しています。

TOPICS

社会福祉法人ゆうゆうと包括連携に関する協定を締結

11月18日(金) 本学当別キャンパスにおいて、社会福祉法人ゆうゆう(大原裕介理事長)と、包括連携に関する協定を締結しました。

社会福祉法人ゆうゆうは、大原理事長含む本学看護福祉学部のOB4人が中心となって創設した法人です。「共生型の地域を創ること」をビジョンに掲げ、現在は当別町や江別市を中心に従業員130名超で17施設を運営し、本学学生の実習やボランティア活動に協力いただいております。

この度、学生が「福祉・医療を現場で学ぶこと」をさらに円滑に進めるべく、締結を迎えることとなりました。これにより、医療・福祉・介護の人材育成をさらに発展させ、社会福祉法人ゆうゆうと共に社会貢献を図ってまいります。

左:浅香学長 右:大原理事長

サハリン州立歯科病院にて歯科技工士セミナーを実施

12月15日(木)・16日(金)の2日間、本学歯学部の舞田健夫教授、佐藤圭史講師と大学病院歯科技工部の原研一主任がロシアのサハリン州立歯科病院を訪問し、「歯科技工士セミナー」を実施しました。

セミナー初日には、本学とサハリン州立歯科病院の歯科医療交流に尽力されたエレメーエフ院長の功績を讃え、北海道とサハリンの今後のさらなる医療交流の発展を願った記念プレートが、本学より州立歯科病院へ贈呈されました。

セミナーには、昨年本学で研修を行ったロマン・ヴィズィレンコさんやタチアナ・オベルティンスカヤさんを含む州立歯科病院の歯科技工士、さらに、サハリン州各地から歯科技工士が集まり、インプラント補綴における二ケイ酸リチウム活用法について学びました。参加者から「二日間の講義では足りない」「追加の講師料を払うからもう少し留まってほしい」等の意見が出てくるなど非常に好評を博した講義・実技のセミナーとなりました。

記念プレートの贈呈
左:舞田教授 右:エレメーエフ院長

学生・模擬患者参加型多職種連携模擬病棟ワークショップを開催

本学は医療系総合大学として5学部を擁し、これまでも様々な場面で多職種連携教育を実施してきました。今回、更に多職種連携教育を充実させるべく、学長の提案で、新しい教育方法を模索する「教育向上・改善プログラム」の一つとして、「模擬患者を中心とした多学部連携模擬病棟の構築」と題して新たな試みを行いました。これは、模擬患者を「入院」させることによって「模擬病棟」を形成して、各学部の学生が医療スタッフとして参加できるカリキュラムを構築するという提案であり、その前段階として、今回は、学生・模擬患者参加型多職種連携模擬病棟ワークショップを開催しました。

11月3日(木)、祝日での開催でしたが、多数の教職員、学生が参加しました。大野弘機学事相談役、今野多美子特任講師にオブザーバーとしてご参加頂き、多職種連携に関して、名古屋大学附属病院で多職種連携の実務経験のある阿部恵子先生による講義や、中央講義棟6階の実習室に「模擬病棟」を設置して、学生が模擬患者とコミュニケーションを行う体験を実施しました。その後、多職種間のディスカッションを行い、プレゼンテーションを行いました。

初めての試みでしたので戸惑いもありましたが、学生にとって新鮮な体験だったようで、「他の職種の人たちが使っている言葉がわからなかった」「各職種で患者に対する目線が違うなと感じた」など、学生から意見が出され、教育をする側にとって新たな発見のあったワークショップでした。今後カリキュラムへの導入を目指してチャレンジしてまいります。

医療関係者にとって、多職種連携は「患者中心の医療」に欠かせないスキルの一つです。本学はこれを学ぶための絶好の環境が整っています。現場に出てリーダーシップを発揮できるような医療人を育てることができればとても素晴らしいことだと思います。

EDITOR'S NOTE

早いもので今年度も卒業・修了の季節がやってまいりました。卒業論文、修士論文、博士論文、国家資格や各種資格試験、就職活動などを通じて、急激に社会人らしく成長していく学生の皆さんの姿を見ることができるのは教員として最も嬉しいことのひとつです。最も嬉しいことのもうひとつは、巣立った後にさらに成長した姿を見せてくれることです。もちろん困った時に相談に来てくれることも嬉しいですが、卒業・修了後の嬉しい報告を待っています。

自分自身を振り返ると、卒業後は臨床や研究などで貪欲に幅広く知識を吸収し、学会や研究会、研修会に積極的に参加し、多くの先輩や先生方、同期などのアドバイスに耳を傾けていました。すぐに成長を感じることができずにモヤモヤしていた時期もあったように思います。それでも継続していくと、知識や人脈に幅が広がり、気づけば成長していたかもしれません。卒業生、修了生の皆さん、全戦全勝はできません。内省したり知識を増やしたりしながら勝負を繰り返してくれること、時折、そのもがきを報告するために母校に戻ってきてくれることを切に願っています。

(J・K記)

ADVANCE
北海道医療大学広報誌 No.166

STAFF● 遠藤 泰 浜上 尚也 長澤 敏行 伊藤 修一
遠藤 紀美恵 志波 晃一 金澤 潤一郎 武田 涼子
澤村 大輔 白鳥 亜矢子 千葉 利代 杉谷 昌彦
宮川 雄一 塚田 将人 園部 望未

発行日● 2017年3月

編集・発行● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
0120-068-222
http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。
E-mail:nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。